

第3回南長浜地域まちづくり共創会議 要点録

I 日 時 令和6年2月13日（火曜日）14時30分～16時00分

II 場 所 長浜市役所本庁3階 特別会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 仁連 孝昭委員（座長）
岩寄 博論委員 中尾 元重委員 高森 喜兵衛委員
小川 幸男委員 辻村 忠嗣委員 西川 満委員
伊藤 義弘委員 若林 浩文委員 松本 秀章委員
小川 暢保委員 中辻 克明委員

【オブザーバー】橋本 典子議員

【長浜市】浅見宣義市長（途中退席）

【事務局】未来創造部 中嶋部長、森次長
政策デザイン課 柴田課長、服部課長代理、饗場副参事、野村主査
都市計画課 西尾副参事、和田主査
道路河川課 中川係長

IV 内 容

1 開 会

事 務 局 開会を宣言

2 市長あいさつ

市 長 【市長挨拶】

3 委員長あいさつ

委 員 長 【委員長挨拶】

4 議 事

（1）南長浜地域まちづくり検討会議による検討経過及びコンセプト案（報告）

事 務 局 ・資料に基づき、南長浜地域まちづくりにかかる検討経緯及び南長浜まちづくりコンセプト（案）を説明。

意見交換

委員

- ・ 検討会として、回数を重ね検討を進めてきた。
- ・ 検討委員にも様々な経歴の方がおられるが、結果的に事務局の説明どおり3本柱にまとめ、「まじわり、未来がそだつまち」という言葉に集約できたと感じている。

- 委員
- ・コンセプトから「のこす」という視点の言葉を消したとの説明だが、“不易流行”という言葉があり、「のこす」は、これで言う不易の部分にあたり、自ずと残るからあえてこの言葉を入れないのではなく、変えることなく大切にすべき基本の部分としてとらえておいた方がよい。これはシビックプライドのような地域愛とも共通するところである。
 - ・ミクロとマクロの視点でまちづくりを議論されたのは良いことと感じる。
 - ・これからは求心力を持った人が集まってくるような仕掛けが必要。
- 委員
- ・コンセプト自体は良くまとめられたと考えるが、この進め方では少子高齢化が進む本市においてスピード感が合わないと感じる。
 - ・田村駅周辺整備に関するソフト事業も全く進められず、残念である。
 - ・都市計画マスタープランや農用地の見直しについても、今回のスピードでは時期が合わないため、何も反映されない。
 - ・田村駅改築が3年止まっており、コンセプトのようなユートピアを作るような話では合わない。
- 委員
- ・コンセプトは共感できるが、いくら素晴らしいコンセプトを作っても、20年前から同じように実現されず繰り返すだけである。
 - ・核となる田村駅が改築されないことには何も始まらないと感じる。
 - ・コンセプトの3本柱では、3つ目の「まじわる」要素が独自性も高く差別化に繋がる鍵と感じる。
- 委員
- ・良いコンセプトと感じる一方、実際にどう動かしていくか課題である。土地規制の問題への対応などは根本的な問題であり、市街化調整区域を外すことさえできれば様々なことが可能になる。
 - ・「のこす」とあるが、ある程度人口がなければ残すこともできない。
 - ・交通利便性を考えると田村駅や神田スマート IC が一つの核になることは間違いない。スマート IC だけができるということにはならないように、まちづくりしていただきたい。
- 委員
- ・2050年を見据えてのコンセプトという点において、今後30年以内に起こるだろうと言われている南海トラフ地震を想定したときに、長浜市が将来的に受け皿になれるような整備もあり得ると感じている。「まじわる」という言葉はそういった可能性を感じさせる良い言葉である。
- 委員
- ・言葉としては綺麗にまとまっている。
 - ・「まじわる」という言葉だが、行政にはもっとまぜてほしい。
 - ・田園風景や自然は耕作者が居るから守られている。人がいてこそであり、人がいなくならないように早急に動きが必要と感じる。20年30年先を待っているのではなく、こう変わるというものを地元

- に示して議論していただきたい。
- 委員
- ・コンセプトは大事であり、若者の意見も大事である。今回はその点を良くまとめられたと感じる。
 - ・一方で実行として見せて行かなければ人は動かないため、一步ずつでいい、進めて行ってほしい。
 - ・人口減少を考えると可及的速やかに行動していかなければならないことは明白である。
 - ・何度も同じような議論を繰り返さないためにも、コンセプトやこういった議論などを我々が次の世代に承継していくことが大事である。
- 委員
- ・コンセプトに何も具体的なことが載っておらず残念である。
 - ・スピード感を持って動かなければ時代に置いていかれるだけだ。田村駅及び神田スマート IC などスピード感をもって進めていただきたい。このままでは10年経っても何も進まない。
- 委員長
- ・コンセプト案については、委員の皆さまから特に反対はないと見受けられる。
 - ・「のこす」「そだつ」「まじわる」という点について、“人”がいなければ成り立たないという視点もあり、農業従事者の担い手問題や、利便性としての核となる田村駅や神田スマート IC の整備について意見を多くいただいた。
 - ・懸念いただいている田村駅については、改築だけでなく活用していくことが必要である。びわ湖に一番近い JR 駅であることを生かしていけたらと考える。
 - ・来年度の進め方等について事務局から説明を。

(2) 今後の検討について

事務局 ・資料に基づき、今後の検討に係る体制及び方法について説明。

意見交換

- 委員
- ・コンセプトばかりで、実行されないということにならないように。
- 事務局
- ・地域外の視点、事業者の視点を取り入れながら検討していきたい。
 - ・パートナー企業や団体に集まってきてもらう仕組みを作り、南長浜をフィールドとして実験してもらい、実現してもらい素地が作ればと考えている。
- 委員
- ・田村駅の話についても、他の委員が言っているのはもっともである。現状、改築は止まっているものの東側ロータリーの工事など「次はどう繋がっていくか」という話が見えてくると希望が見えて良い。
 - ・自分はインキュベーションセンターにおいて、バイオ大学とも連携

- し新しいベンチャー企業の立ち上げ等行っている。
- 事務局
- ・ 大学や駅改築、神田スマート IC は個別に専門部会を作らないのか。
 - ・ 当課は大学連携の担当でもあり、南長浜において大学は重要な存在だと認識している。また、インキュベーションセンターの機能についても考えていきたい。
 - ・ 専門部会の内容について、今月中に検討会議を行い、詳細について検討する予定である。
- 委員
- ・ 都市計画マスタープランは今年の秋に改定されるという話を聞いているが、この南長浜地域のスピード感では間に合わないのではないのか。次の見直し時期ということになれば更に 10 年遅れてしまう。
 - ・ 滋賀県が産業立地の公募を行うという話を聞いている。神田スマート IC 周辺は利便性も高いため、そこは検討してくれるのか。地域の地権者が全員納得するかどうかは別として、早めに動いていく必要があると感じている。
- 事務局
- ・ 都市計画マスタープランについては都市建設部と協議を行っており、できうる限り南長浜の要素を入れ込む予定である。
 - ・ 産業立地について、主は産業観光部であるが、市として積極的に進める予定である。

5 部長あいさつ

部長 【部長挨拶】

以上